

科目分類	専門分野	対象学年	1年生	
授業科目	看護学概論Ⅰ（看護の概念）	単位	1単位 30時間	
講師名	山下利香	開講時期	前期	
授業目標	1. 看護全般の概念を捉え、看護の位置づけと役割の重要性を理解できる。			
授業内容	回数	内容	授業形態	備考
	1	看護への導入	講義	
	2	看護の定義	講義	
	3	さまざまな看護理論	GW 発表	小テスト
	4			
	5	看護の役割と機能	講義	
	6	看護の継続性と情報共有	講義	小テスト
	7	看護の対象 看護の対象としての人間	講義	
	8	生涯発達しつづける存在としての人間	講義	小テスト
	9	国民の健康・生活の全体像	講義	
	10	国民のライフサイクルと健康・生活	講義	小テスト
	11	現在の日本人の健康と生活を考えるキーワード	講義	
	12	看護の提供者	講義	
	13	看護職者の就業状況と継続教育	講義	
	14	看護における倫理	協同学習	
15	看護実践における倫理問題への取り組み	講義		
授業形態	講義 グループ学習			
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅰ 看護学総論 医学書院			
参考書	F. ナイチンゲール著 湯楨ます他訳：看護覚え書 現代社 V. ヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版 実践に生かす看護理論19 サイオ出版 その他 必要時配布			
評価方法	筆記試験（70点） 小テスト5点×4（20点） 課題提出（10点） 態度・出席状況			
履修上の指導等	闘病記や看護体験記などの本をたくさん読むこと、 ナーシングチャンネルによるDVD（看護の歴史）視聴をお勧めします。			

科目分類	専門分野	対象学年	1年生	
授業科目	看護学概論Ⅱ（看護理論・看護過程）	単位（時間）	1単位 45時間	
講師名	山下利香	開講時期	前期	
授業目標	1. 看護理論の考え方を理解できる。 2. 看護実践の方法として看護過程の意義を理解できる。 3. 看護理論を活用し、看護過程の一連のプロセスを理解できる。 4. 看護記録の意義と目的を理解できる。 5. 看護記録および診療情報の取扱いについて理解できる。			
授業内容	回数	内容	授業形態	備考
	1	【看護理論】看護理論の考え方 ロイ、ヘンダーソン、ゴードン	講義・GW	看護学概論Ⅰで学んだ理論の復習をしておく *学びたい理論を選択
	2	情報の整理 理論毎のアセスメントの枠組みの違い	GW	(医)基礎Ⅰ p240 参考
	3	アセスメント（情報の収集と分析） 理論毎の違い	GW	
	4	アセスメントについて 発表・まとめ	GW・講義	
	5	看護診断	GW	
	6	看護診断について 発表・まとめ	GW・講義	
	7	目標設定・看護計画立案	GW	
	8	実施・評価	GW	
	9	目標設定・計画立案・実施・評価 発表	GW・講義	
	10	理論毎のまとめ	講義	
	11	【看護過程】看護過程展開と技術	講義	
	12	看護過程を展開する際の基盤となる考え方	講義	
	13	看護過程の各段階	講義	
	14	（アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価）		
	15	演習：事例で学ぶ看護過程の展開	個人ワーク	
	16	*ロイ、ヘンダーソン、ゴードンの中から一つの看護理論を選択し活用する。	GW	
	17			
	18	①アセスメント		
	19	②看護診断		
	20	③計画立案 ④実施 ⑤評価		
	21	看護過程の発表	GW	
	22	看護記録	講義	
23	演習：看護記録の実際 SOAP	演習		
授業形態	講義	グループワーク		

テキスト	<p>専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 新体系 看護学全書 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 実践に生かす看護理論Ⅰ 9 サイオ出版</p>
参考書	<p>ロイ適応看護理論の理解と実際 第2版 小田正枝 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 スーベルヒロカワ ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 スーベルヒロカワ ケースを通してやさしく学ぶ 看護理論 日総研 やさしい看護理論 現場で活かせるベースの考え方 MCメディカ出版</p>
評価方法	<p>筆記試験（80％） 課題提出および提出期限、出席状況、受講態度 （20％）</p>
履修上の指導等	<p>事前・事後学習を行い主体的に取り組んでください。 テキスト以外にも解剖生理学、疾病論等あらゆる知識を必要としますので様々な参考書を活用します。 ナーシングチャンネルによるDVD（看護論）視聴をお薦めします。</p>

科目分類	専門分野	対象学年	1年生
授業科目	基本技術 I (コミュニケーション技術・指導技術)	単位(時間)	1 単位 30 時間
講師名	芦村 恵 本田智春	開講時期	前期～後期
授業目標	1. コミュニケーション技術を身につける。 2. 看護における教育機能及び指導方法が理解できる。 3. 対象の身体的健康状態を観察・評価する技術を習得できる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1・2	【コミュニケーション技術】 コミュニケーションの意義と目的	講義
	3	コミュニケーション構成要素と成立過程	講義
	4・5	関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義
	6・7	効果的なコミュニケーションの実際	講義・演習
	8	コミュニケーション障害への対応	講義
	9	【指導技術】 1. 看護の教育機能 2. 指導技術の基本となるもの 3. 指導の対象と領域	講義
	10	4. 指導の進め方	講義
	11	問題の特定、指導計画書の立案	GW
	12	内容の具体化、方法・教材および評価方法の選定	GW
	13	教材の作成、デモンストレーション、修正など	GW
	14・15	グループごとに発表、質疑応答、修正など	演習発表
	16	グループごとに評価の振り返りをし、改善点の明確化	評価・GW
授業形態	講義 グループワーク 演習		
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカルフレンド社 ケアのこころシリーズ④ 患者指導にあたって インターメディカ		
参考書	ナーシンググラフィカ 25 成人看護学 セルフマネジメント メディカ出版系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 やる気を引き出す 8 つのポイント～行動変容を促す保健指導・患者指導～ 医歯薬出版		
評価方法	試験 課題 受講態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	1年生	
授業科目	基本技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）	単位(時間)	1単位 24時間	
講師名	岡野美保	開講時期	前期	
授業目標	1. 対象の身体的健康状態を観察・評価する技術を習得できる。			
授業内容	回数	内容	授業形態	備考
	1	I. 看護におけるヘルスアセスメントとは II. フィジカルアセスメントとは	講義	
	2	III-1 バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温測定	講義	課題
	3	III-2 バイタルサインの観察とアセスメント 1) 脈拍測定 2) 血圧測定 3) 循環器系のアセスメント	講義	課題
	4			
	5	III-3 バイタルサインの観察とアセスメント 1) 呼吸数・呼吸音 2) 呼吸器系のアセスメント	講義	課題
	6	III-4 バイタルサインの観察とアセスメント 1) 意識状態 2) 身体測定	講義	課題
	7	III-5 血圧測定 演習	演習	
	8			
	9	III-6 バイタルサイン演習および振り返り	演習	
	10			
	11	IV-1 系統的なフィジカルアセスメントの実際	講義	
	12	V. 心理・社会的状態のアセスメント VI. セルフケア能力のアセスメント	講義	
授業形態	講義 グループ学習 演習			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院			
参考書	人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる(3) フィジカルアセスメント			
評価方法	筆記試験 態度			
履修上の 指導等				

科目分類	専門分野	対象学年	1年生
授業科目	援助技術 I (清潔・衣服、環境)	単位(時間)	2単位 36時間
講師名	竹中まい 楠本恭子	開講時期	前期
授業目標	1. 環境、清潔、衣生活の意義がわかり基礎的な技術を習得できる。		
	回数	内容	授業形態
	1	【環境】 環境調整技術 療養生活の環境 病室・病床環境	講義
	2	病床環境を整える ベッドメイキング	講義
	3	ベッドの構造 環境整備とリネン類の準備	講義
	4	ベッドメイキング	演習
	5・6	ベッドメイキング技術試験	
	7	【清潔・衣服】 衣生活援助の基礎知識 病衣・寝衣の交換	講義
	8	臥床患者の寝衣交換、リネン交換 輸液ラインがある患者の寝衣交換	講義
	9	清潔援助の基礎知識 (皮膚・粘膜の構造と機能、清潔援助の効果)	講義
	10	援助の基礎知識 (入浴・シャワー浴・手浴・足浴)、演習のOR	講義
	11	手浴・足浴	演習
	12	洗髪の基礎知識 演習のOR	講義
	13	洗髪	演習
	14	全身清拭・陰部洗浄の基礎知識、 清拭のデモンストレーション 演習のOR	講義・演習
	15・16	全身清拭	演習
	17・18	演習の振り返りとまとめ	演習
授業形態	講義・演習・技術試験		
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院		
参考書	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メヂカルフレンド社 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院		
評価方法	筆記試験、技術試験 レポートや事前学習、聴講・演習態度 (欠課・遅刻、提出物の状況など含む) の不備は減点。		
履修上の指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・講義については必ず予習・復習を行ってください。 ・演習を欠席した場合は、原則として指定した日時に演習することとします。 ・演習の際は、原則として実習に則した服装とする。演習オリエンテーションの内容を確認して、身なりを整えてから臨んでください。 		

身なりや事前の準備が不十分な場合、減点対象とします。

- ・技術試験の再試験は講義時間以外の時間を使って行います。詳細は別途説明をします。

科目分類	専門分野	対象学年	1年生
授業科目	援助技術Ⅱ（食事・排泄）	単位(時間)	1単位 30時間
講師名	松本貴子 鈴木織枝	開講時期	前期～後期
授業目標	1. 栄養、排泄の意義がわかり基礎的な技術を習得できる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	【食事】 食事と栄養の意義、食事摂取基準	講義
	2	栄養状態のアセスメント 摂食と嚥下のメカニズム 食事・栄養摂取の仕組み（消化・吸収）	講義
	3	医療施設で提供される食事の種類と形態 食事摂取の自立困難な人への援助	講義
	4	摂食・嚥下の評価、摂食・嚥下訓練	講義
	5	食事援助の実際 （嚥下と体位及び食物形態に関する実験）	演習
	6	校内実習の振り返り	ワールドカフェ
	7	非経口栄養摂取の援助	講義
	8	【排泄】 排泄の意義と仕組み	講義
	9	自然排泄の援助 尿器・差し込み便器・おむつによる排泄援助	講義
	10	尿器・差し込み便器・おむつによる排泄援助	演習
	11	排便障害のある患者の援助	講義
	12	グリセリン浣腸、摘便	演習
	13	ストーマケア	講義
	14	排尿障害の種類、排尿障害のある患者の援助 滅菌手袋の装着方法排便障害の種類	講義
	15	一時的導尿	演習
16	持続的導尿	講義	
授業形態	講義、演習、ビデオ		
テキスト	基礎看護学③基礎看護学技術Ⅱ P55～P94 メヂカルフレンド社 基礎看護技術Ⅱ P57～P92 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床基礎看護技術 P87～P148 医学書院		
参考書			
評価方法	筆記試験 自己学習 学習態度・出席状況		
履修上の 指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	1年生
授業科目	援助技術Ⅲ（活動・休息）	単位(時間)	1単位 30時間
講師名	鶴浜 香 杉田ひとみ	開講時期	前期～後期
授業目標	1. 活動・休息の意義がわかり基礎的な技術を習得できる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	【活動】 看護技術を学ぶにあたって	講義
	2	基本的活動の基礎知識	講義
	3	長期臥床状態による影響	講義
	4	姿勢による生理学的影響	講義
	5	ボディメカニクス、力学	講義
	6	ポジショニング	講義
	7	体位変換の目的・留意点 移動	講義
	8	ファーラー位への移動 演習	演習
	9	体位変換・移動 演習	演習
	10	総まとめ	講義
	11	【休息】 睡眠・休息に関する基礎知識	講義
	12	睡眠・休息の援助	講義
	13	死亡の動向と場所 死にゆく人と周囲の人々へのケア	講義
	14	わが国の風習に根づく死後の処置のあり方 死後の処置	講義
15	まとめ	講義	
授業形態	講義、演習、グループ学習		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 新体系 看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考書	講義内で都度紹介いたします。		
評価方法	筆記試験、レポート、グループ学習		
履修上の 指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを参照し、次講義で行う項目に目を通す（予習）。 ・講義後は各自復習を行い、知識の定着を図りましょう。 ・他の看護技術（生活の援助）を提供する時も、活動の援助技術及びボディメカニクスは必要となります。手順を見ずに実施できるまで、各自で練習をしていただきたい。 		

科目分類	専門分野		対象学年	1年生
授業科目	治療・処置時の看護		単位 時間	2単位 46時間
講師名	楠本洋子 富崎通恭 内田広明		開講時期	前期・後期
授業目標	1. 治療・処置における看護師の役割と援助を理解できる。 2. 診療援助技術としての与薬、症状・生体管理技術時の援助に関する基本的知識について理解できる。 3. 援助技術を原理・原則に基づいて安全に実施することができる。			
授業内容	回数	内容	授業形態	
	1～3	1. 酸素吸入療法（酸素ポンベの取扱い含む） 2. 排痰ケア 3. 吸引 1) 口腔・鼻腔吸引 2) 気管内吸引 3) 閉鎖式気管内吸引 4) 持続的吸引（胸腔ドレーン） 4. 罨法	講義	
	4～5	5. 救急蘇生（消防署）	演習	
	6～18	6. 与薬 1) 与薬の基礎知識（薬液の計算含む） 2) 与薬における看護師の役割（正しい与薬と薬の管理） 3) 与薬援助（経口・外用薬・直腸・吸入）演習含む 4) 注射法（皮内・皮下・筋肉内）演習含む 5) 注射法（静脈内：ワンショット、点滴静脈内）演習含む 6) 中心静脈カテーテル	講義・演習	
19～23	7. ME 機器の取扱い 1) 心電図モニター 2) 12誘導心電図 3) 輸液ポンプ 4) シリンジポンプ 5) 人工呼吸器 6) 除細動器・AED	講義・演習		
授業形態	講義・演習			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 新体系 看護学全書 基礎看護技術Ⅱ メディカルフレンド社			
参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術			
評価方法	筆記試験 授業態度 演習態度			
履修上の指導等				

科目分類	専門分野		対象学年	1年生
授業科目	検査時の看護		単位 時間	1単位 22時間
講師名	梅田さおり 山内公德		開講時期	後期
授業目標	1. 検査が患者に与える影響と看護の役割を理解できる。 2. 安全・安楽に検査を受けられるよう基本的技術を習得できる。			
授業内容	回数	内容	授業形態	
	1	【検体検査・採血等】 1. 検査の基礎知識 1) 検査時の基礎知識 2) 検査に関するアセスメント	講義	
	2～5	2. 検体検査 1) 静脈血採血（演習含む） 2) 動脈血採血 3) 尿検査 4) 便検査 5) 喀痰検査	講義・演習	
	6・7	【生体検査】 3. 生体検査（消化器） 1) 内視鏡検査（上部・下部消化管、気管） 2) X線透視（上部・下部消化管、胆道造影） 3) X線検査、CTおよびMRI	講義	
	8・9	生体検査（循環器） 1) 心電図（心電図モニター、12誘導心電図）演習含む 2) 心臓カテーテル検査（前・中・後の看護）	講義・演習	
	10	生体検査（呼吸器） 1) 呼吸機能検査 2) 気管支鏡検査	講義	
	11	4. 穿刺 1) 胸腔穿刺 2) 腹腔穿刺 3) 腰椎穿刺	講義	
授業形態	講義・演習			
テキスト	基礎看護技術Ⅱ（11章ABC 12章） 医学書院 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社			
参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術			
評価方法	筆記試験 授業態度 演習態度			
履修上の指導等				

科目分類	専門分野		対象学年	1年生
授業科目	臨床看護学総論		単位	1単位 30時間
講師名	楠本恭子		開講時期	前期～後期
授業目標	1. 既習知識・技術を統合し、健康障害をもつ対象の状態や状況に応じた看護実践の方法を理解することができる。 2. 問題解決能力に必要な思考力を養うことができる。 協同学習を通して共有理解し、状況に応じて対応できる能力を養うことができる。			
授業内容	回数	内容	授業形態	
	1・2	I. 発熱のある患者の看護 体温調節・発熱のメカニズム、随伴症状および原因 アセスメント、治療 (演習) 氷枕、クーリング、温罨法	講義・演習	
	3	II. 痛みのある患者の看護 痛みのメカニズムと分類、影響因子、アセスメント、治療	講義	
	4・5	III. 呼吸障害のある患者の看護 換気障害(閉塞性・拘束性)、低酸素、高炭酸ガス血症 呼吸困難、咳嗽・喀痰、喘鳴、チアノーゼ (演習) 酸素療法、体位ドレナージ、吸引	講義・演習	
	6	呼吸障害のある患者の事例検討、看護計画立案	グループワーク・ 協同学習	
	7・8	IV. 循環障害のある患者看護 症状(胸痛、動悸、失神、浮腫、ショック)とメカニズム、アセスメント (演習) 手浴、足浴、ショック位	講義・演習	
	9	循環器障害のある患者の事例検討・看護計画立案	グループワーク・ 協同学習	
	10・11	V. 消化・排泄機能障害のある患者の看護 症状(腹痛、便秘、吐血・下血、嘔吐、下痢)とメカニズム、アセスメント (演習) おむつ交換、腹部マッサージ	講義・演習	
	12	消化・排泄機能障害のある患者の事例検討、看護計画立案	グループワーク・ 協同学習	
	13	VI. 安静療法を必要とする患者の看護 安静療法の効果と弊害、効果を出す看護と弊害を予防する看護	講義	
	14	VII. 意識障害のある患者の看護	講義	

		意識障害の判断、診断および治療、アセスメント	
	15	看護計画発表	協同学習
授業形態	講義・演習・グループワーク・協同学習		
テキスト	看護過程に沿った対症看護 学研		
参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		
評価方法	筆記試験 授業態度 演習態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	看護過程展開論 I	単位	1単位 30時間
講師名	鈴木織枝 楠本恭子 松本貴子	開講時期	前期
授業目標	1. 看護過程の基本理論を活用し、対象特性を考慮しながら、健康状態に応じた個別性のある看護を提供する過程について事例展開を通して基本的な問題解決能力を養うことができる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	急性期にある患者の看護過程の展開 事例紹介と情報収集 (事例：①心不全)	個人ワーク
	2	アセスメント	グループワーク
	3	問題の明確化・目標設定	グループワーク
	4	計画立案	グループワーク
	5	看護過程の振り返り	グループワーク
	6	回復期にある患者の看護過程の展開 情報収集 (①の事例の回復期)	個人ワーク
	7	アセスメント	グループワーク
	8	問題の明確化・目標設定	グループワーク
	9	計画立案	グループワーク
	10	看護過程の振り返り	グループワーク
	11	在宅移行期 (在宅療養者) の看護過程の展開 情報収集 (①の事例の在宅移行期)	個人ワーク
	12	アセスメント	グループワーク
	13	問題の明確化・目標設定	グループワーク
	14	計画立案	グループワーク
15	看護過程の振り返り	グループワーク	
授業形態	演習 (個人ワーク・グループワーク)		
テキスト	成人看護学 2 呼吸器 医学書院 地域・在宅看護論 医学書院		
参考書			
評価方法	急性期 (40点)、回復期 (30点) 在宅 (30点)		
履修上の指導等	実習に直結した科目です。疑問を持ちながら主体的に取り組んで下さい。		

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	看護過程展開論Ⅱ	単位	1単位30時間
講師名	竹中まい 木本恵 富崎通恭	開講時期	後期
授業目標	1. 看護過程の基本理論を活用し、対象特性を考慮しながら、健康状態に応じた個別性のある看護を提供する過程について事例展開を通して基本的な問題解決能力を養うことができる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	母性の看護過程の展開 事例紹介と情報収集	個人ワーク
	2	アセスメント	グループワーク
	3	問題の明確化・目標設定	グループワーク
	4	計画立案	グループワーク
	5	看護過程の振り返り	グループワーク
	6	小児の看護過程の展開 事例紹介と情報収集	個人ワーク
	7	アセスメント	グループワーク
	8	問題の明確化・目標設定	グループワーク
	9	計画立案	グループワーク
	10	看護過程の振り返り	グループワーク
	11	精神の看護過程の展開 事例紹介と情報収集	個人ワーク
	12	アセスメント	グループワーク
	13	問題の明確化・目標設定	グループワーク
	14	計画立案	グループワーク
15	看護過程の振り返り	グループワーク	
授業形態	演習（個人ワーク・グループワーク）		
テキスト	母性看護学各論 医学書院 小児看護学各論 医学書院 精神看護の展開 医学書院 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院		
参考書			
評価方法	母性（30点）小児（30点）精神（40点）		
履修上の指導等	実習に直結した科目です。疑問を持ちながら主体的に取り組んで下さい。		

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	看護研究Ⅰ	単位	1単位15時間
講師名	蒲池咲子	開講時期	前期
授業目標	1. 看護における研究の意義を理解できる。 2. 看護研究に必要な基礎的能力（データ収集・論文作成・発表）の基本を身につける。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	看護研究の意義と内容	講義
	2	研究の進め方	講義
	3	論文の構成	講義
	4	文献検索、文献レビューの目的と方法	講義・演習
	5	倫理的配慮と研究論文の構成要素	講義
	6	研究デザイン	講義・演習
	7	研究計画書	講義・演習
	8	論文作成の基本ルールとプレゼンテーション	講義
授業形態	講義・演習		
テキスト	看護管理 看護研究 看護制度 メヂカフレッド社 看護学生のためのレポートの書き方教室 照林社		
参考書			
評価方法	筆記試験 課題 態度		
履修上の指導等	演習での課題に積極的に参加すること。 看護研究Ⅱへ繋がる科目であるため、確実に理解すること。		

科目分類	専門分野	対象学年	3年生
授業科目	看護研究Ⅱ	単位	1単位15時間
講師名	蒲池咲子 他教員	開講時期	前期～後期
授業目標	<p>1. 事例研究の目的がわかり研究的態度を身につける。</p> <p>2. 事例を通して看護を振り返り、多角的視点から深く考察し、質の高い看護を追究することができる。</p> <p>3. 論文の構成要素を踏まえ、事例研究としてまとめることができる。</p>		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	【事例研究】 研究テーマの検討と研究計画書の作成	講義・演習
	2	論文作成	演習
	3	論文作成	演習
	4	論文作成	演習
	5	論文作成	演習
	6	研究発表	演習
	7	研究発表	演習
8	研究発表	演習	
授業形態	講義・演習		
テキスト	看護管理 看護研究 看護制度 メヂカフレント社 看護学生のためのレポートの書き方教室 照林社		
参考書			
評価方法	課題 態度（発表・参加状況）		
履修上の指導等	看護を探究する科目です。個人ワークが中心のため積極的に取り組むこと。 担当教員との連携をしっかりと図り、主体的に指導を受けること。 倫理的配慮に基づき、論文作成を行うこと。		

科目分類	専門分野		対象学年	1年生
授業科目	地域の暮らしと看護		単位	1単位 15時間
講師名	松本貴子		開講時期	前期
授業目標	<p>1. 暮らしを理解するとともに暮らしが健康に与える影響を理解する。</p> <p>2. 地域・在宅看護論実習の地域探索の意義につなげる。</p>			
授業内容	回数	内容	授業形態	テキスト
	1	<p>人間と暮らしの理解</p> <p>生活とは何か</p> <p>暮らすということはどういうことかを考える。</p> <p>生理的側面、文化的側面、社会的側面、経済的側面 (子供を産み育てる、学ぶ、働く、病を治す、老いとともに生きる、最期を迎えるなど)</p>	講義 DVD	<p>看護学概論 p 100～103</p> <p>在宅看護論①</p>
	2	<p>人間と暮らしの理解</p> <p>支え合って生きていくことはどういうことか。人と人が繋がって生きていくことの大切さを気づく内容とする。 (家族、仲間、近隣の人々、学校や職場、支え合い)</p>	講義	<p>看護学概論 p 100～103</p> <p>在宅看護論①</p>
	3	<p>地域の生活環境が健康に与える影響</p> <p>文化的環境、社会的環境、自然環境</p> <p>日常生活を振り返り、1日の生活の中で健康と結びついている項目と不健康と結びついている生活習慣を挙げて生活と健康との関係について理解する。</p>	講義 GW	
	4	<p>看護職のケアの対象とは</p> <p>看護の対象としての家族・集団・地域</p>	講義	<p>看護学概論 p 103～106</p>
	5	<p>地域診断の方法</p>	講義	在宅看護論①
	6	<p>コミュニティーアズパートナーモデル理論</p>	GW	
	7	<p>1～6回の内容を筆記試験</p> <p style="text-align: right;">1時間</p>	定期試験	
8	<p>上天草市の地域特性と健康問題</p> <p>上天草市のオリエンテーション資料を基に上天草市保健センター保健師よりオリエンテーションをしてもらう。</p>	保健師からの説明	1年生後期	
授業形態	講義・演習			
テキスト	<p>基礎看護学① 看護学概論 医学書院 p 100～106</p> <p>ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版</p> <p>在宅看護論 医学書院</p>			
参考書	<p>ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障①健康と社会・生活 メディカ出版</p>			
評価方法	<p>筆記試験 40点、レポート 40点 出席・態度点 20点</p> <p>「暮らしとは何か、暮らしが健康に与える影響とは何か」についてレポートにまとめる。</p>			
履修上の指導等	<p>地域・在宅看護論実習 I に繋がる講義となります。</p>			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	家族看護学	単位	1単位 15時間
講師名	杉田ひとみ	開講時期	前期
授業目標	1. 多様化する家族を捉え、家族を対象とした看護について考えることができる。 2. 家族の介護負担軽減のための支援方法について学ぶことができる。 3. 対象特性に応じた家族看護の重要性を理解する。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	家族を対象とした看護について考える 1) 家族看護の必要性 2) 家族看護の目的と家族看護の基本	講義 これまでの自分の家族の関わりを記述する。
	2	家族の定義と機能 1) さまざまな家族のあり方 2) 家族の機能の変化 3) 家族の定義	講義 家族のデータからの読み取りなどから家族の多様性、機能の変化を理解する
	3	家族を看護するための理論① 1) 家族発達論の理解	講義・演習 家族発達理論の理解
	4	家族を看護するための理論② 2) 家族システム理論	講義・演習 システム理論の理解
	5	家族を看護するための理論③ 3) 家族ストレス対処理論	講義・演習 ストレス対処理論の理解
	6~8	家族看護の実際 (エコマップとジェノグラムの書き方含む)	協同学習 発表 事例の家族看護を適切な理論を活用してその実際について考える
授業形態	講義・演習		
テキスト	家族看護学 医学書院		
参考書			
評価方法	筆記試験、演習・態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	1年生	
授業科目	地域・在宅看護概論	単位(時間)	2単位 30時間	
講師名	松本貴子 松本容子	開講時期	1年生前期	
授業目標	1. 在宅看護の目的と在宅看護における看護師の役割について理解できる。 2. 在宅看護の対象となる地域で生活しながら療養する人とその家族を理解する。 3. 生活の質を支える法令・制度や多職種との連携を理解し、看護の役割を理解する。			
授業内容	回数	内容	授業形態	
	1	地域・在宅看護の背景	講義・DVD	
	2	地域・在宅看護の対象	講義	
	3・4	地域・在宅看護の対象 家族の理解	講義・DVD 演習	
	5・6	地域における暮らしを支える看護 地域におけるライフステージに応じた看護	講義	
	7・8	地域における暮らしを支える看護 暮らしにおけるリスク 災害対策	講義・演習	
	9	地域包括ケアシステムについての概要と看護職の 役割、地域包括支援センターの役割	講義	
	10	在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネ ジメント ケアマネジメントの定義と概念	講義・DVD	
	11	介護予防ケアプラン作成の実際	講義・GW	
	12	地域療養を支える制度① 医療保険制度、後期高齢者医療制度 介護保険制度、生活保護制度	講義	
	13	地域療養を支える制度② 障害者総合支援法、難病法	講義	
	14	訪問看護制度	講義	
	15	訪問看護サービスの展開	講義	
	授業形態	講義 グループワーク 演習		
	テキスト	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 I 医学書院 地域を支えるケア 地域・在宅看護論① メディカ出版		
参考書	適宜、紹介します。			
評価方法	筆記試験 授業態度			

履修上の 指導等	2年次後期に開講する「地域・在宅看護援助論」につながる講義です。 積極的に授業に参加してください。
-------------	--

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	地域・在宅看護援助論	単位(時間)	2単位 45時間
講師名	尾上美穂 梅田さおり 堀江 静	開講時期	前期～後期
授業目標	1. 基礎看護技術を応用し、在宅における基礎的な技術を身につける。 2. 社会資源を活用し、対象者のニーズに基づく生活行動の支援方法を理解できる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	地域・在宅看護における看護過程	講義
	2	暮らしの場で看護をする心構え	講義
	3	地域・在宅における時期別の看護 ①健康な時期の看護 ②外来受診期 ③在宅療養準備期 ④在宅療養移行期 ⑤在宅療養安定期 ⑥急性増悪期	講義
	4	地域・在宅における時期別の看護 ⑦終末期	講義
	5～7	訪問看護 演習 脳梗塞	演習・GW 発表
	8	地域・在宅における安全を守る看護	講義
	9	地域における暮らしを支える看護実践 ①療養環境	講義
	10	地域における暮らしを支える看護実践 ②活動・休息	講義
	11	地域における暮らしを支える看護実践 ③食生活・嚥下 経管栄養、在宅中心静脈栄養	講義
	12	地域における暮らしを支える看護実践 ④排泄 ストーマの管理とケア	講義
	13	地域における暮らしを支える看護実践 ⑤苦痛の緩和	講義
	14	地域における暮らしを支える看護実践 ⑥呼吸・循環	講義
	15	在宅酸素療法、NPPV、TPPV、在宅人工呼吸療法	
	16	地域における暮らしを支える看護実践 ⑦創傷管理 皮膚トラブル、褥瘡、スキンケア	講義
	17	地域における暮らしを支える看護実践 ⑧与薬	講義

	18	地域における暮らしを支える看護実践 ⑨清潔・衣生活	演習 GW
	19		
	20		
	21		
	22	地域共生社会における他職種連携・多職種チームでの協働	講義
23	地域・在宅看護の事例展開 ①COPD ②パーキンソン ③認知症	講義	
授業形態	講義 グループワーク 演習		
テキスト	地域・在宅看護論① 地域を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論① 医学書院 地域・在宅看護論② 医学書院		
参考書			
評価方法	筆記試験 授業態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	1年生
授業科目	成人看護学概論	単位	1単位15時間
講師名	梅田さおり	開講時期	前期
授業目標	1. 成人の特徴と健康問題が理解できる。 2. 成人期の特徴を踏まえ、健康の保持増進、疾病の予防に向けた看護が理解できる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	成人の生活 ・対象の理解,対象の生活	講義
	2	生活と健康 ・成人を取り巻く環境と生活からみた健康 ・生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義
	3	成人への看護のアプローチの基本 ・生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助	講義
	4	・健康問題をもつ大人と看護師の人間関係	
	5	ヘルスプロモーションと看護	講義
	6	健康をおびやかす要因と看護	講義
	7	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	講義
	8	慢性病との共存を支える看護	講義
授業形態	講義		
テキスト	成人看護学総論 医学書院		
参考書			
評価方法	筆記試験 授業態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	疾患別看護 I	単位	1単位 42時間
講師名	井手尾将志 古賀裕美子 西田竜太郎	開講時期	前期
授業目標	呼吸器・循環器・消化器障害が、対象者に及ぼす影響を、身体的・心理的・社会的側面から捉え、患者と家族を含めた健康上の問題をアセスメントし、看護の実践方法を学ぶ。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	【呼吸器】 1. 呼吸器障害を持つ対象の特徴および経過と看護	講義
	2	2. 結核患者の看護	講義
	3	3. 肺炎患者 〃	講義
	4	4. 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患患者の看護	講義
	5	5. 気胸患者の看護	講義
	6	6. 睡眠時無呼吸症候群患者の看護	講義
	7	7. 肺がんで手術を受ける患者の看護	講義
	8	【循環器】 1. 循環器障害を持つ対象の特徴および経過と看護	講義
	9	2. 虚血性心疾患患者の看護（心筋梗塞、狭心症） ※心臓カテーテル検査・治療の看護について含む	講義
	10	3. ペースメーカーを装着した患者の看護 （心臓リハビリテーション、生活指導含む）	講義
	11	4. 心不全患者の看護（急性心不全、慢性心不全）	講義
	12	5. 弁膜症患者の看護	講義
	13	6. 不整脈患者の看護	講義
	14	7. 閉塞性動脈硬化症患者の看護	講義
	15	【消化器】 1. 消化器障害を持つ対象の特徴および経過と看護	講義
	16	2. 食道がん患者の看護	講義
	17	3. 胃がんで手術を受ける患者の看護	講義
	18	4. 大腸がんで手術を受ける患者の看護（ストーマ造設含む）	講義
	19	5. すい臓がんで手術を受ける患者の看護	講義
	20	6. 急性膵炎、肝硬変患者の看護（食道静脈瘤含む）	講義
	21	7. 胆道疾患患者の看護	講義
授業形態	講義 ・ 課題		

テキスト	専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器 医学書院 (6章) 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器 医学書院 (6章) 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 医学書院 (6章)
参考書	ナーシンググラフィカ 健康回復と看護① 呼吸・循環機能障害 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 健康回復と看護② 栄養代謝機能障害 メディカ出版 ナーシングチャンネル
評価方法	筆記試験 (100点)
履修上の指導等	事前学習、事後学習を行って講義に望んでください。

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	疾患別看護Ⅱ	単位	1単位 30時間
講師名	瀬濱阿紀 中崎恵理 開田亜希子	開講時期	後期
授業目標	<p>1. 運動機能障害、認知機能・コミュニケーション障害をもつ対象の特徴と症状、検査・治療に応じた看護の方法が理解できる。</p> <p>2. 障害をもった患者の適応と社会復帰への看護が理解できる。</p>		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	【運動機能障害】	講義
	2	1. 運動麻痺のある患者の看護	
	3	2. 関節リウマチ患者の看護	
	4	3. 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護	
	5	4. ギプス固定を受ける患者の看護	
	6	5. 牽引療法を受ける患者の看護 6. 四肢の切断術と看護	
	7	【認知機能・コミュニケーション障害】	講義・演習
	8	1. 脳・神経疾患をもつ人の看護	
	9	2. 脳血管疾患をもつ人の看護	
	10	3. パーキンソン病患者の看護	
	11	4. 筋委縮性側索硬化症患者の看護 髄膜炎患者の看護	
	12	5. 認知症をもつ人の看護	
	13	6. 嚥下体操・嚥下訓練 7. (演習)：嚥下体操・嚥下訓練の実際	
	14	【脳神経外科看護】	講義
15	1. 脳梗塞急性期 (t-PA 投与) 看護 脳出血、クモ膜下出血頭部外傷患者の看護 2. 開頭手術を受ける患者の看護		
授業形態	講義 演習		
テキスト	専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 (6章) 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器 医学書院 (6章)		
参考書			
評価方法	筆記試験 授業態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	疾患別看護Ⅲ	単位	1単位 30時間
講師名	西中護 楠本洋子 尾崎かおり 赤穂小百合	開講時期	後期
授業目標	<p>1. 内部環境調節機能障害、生体防御機能の障害、性機能障害をもつ患者の特徴と症状、検査・治療に応じた看護の方法が理解できる。</p> <p>2. 生活習慣と密接に関連し慢性的な経過をたどる健康障害の看護が理解できる。</p>		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	【内分泌代謝】	講義・演習
	2	1. 糖尿病患者の看護	
	3	2. 脂質異常症患者の看護	
	4	3. 内分泌疾患患者の看護	
	5	4. 甲状腺疾患、下垂体疾患患者の看護 5. 演習：フットケア	
	6	【免疫機能障害・感染症】	講義・演習
	7	1. 易感染状態にある患者の看護	
	8	2. アレルギー性疾患患者の看護	
	9	3. 自己免疫疾患患者の看護	
	10	4. 造血器腫瘍患者の看護（輸血 含む）	
	11	5. がん薬物療法、放射線療法と看護	
	12	6. HIV 感染症・エイズ患者の看護 7. 演習	
	13	【性機能障害、腎・泌尿器】	講義
	14	1. 性・生殖機能障害のある患者の看護	
15	2. 急性腎不全・慢性腎不全患者の看護 3. 血液透析患者の看護、腎移植を受ける患者の看護		
授業形態	講義 演習		
テキスト	<p>専門分野Ⅱ 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院 (6章)</p> <p>専門分野Ⅱ 成人看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 (5章、6章)</p> <p>専門分野Ⅱ 成人看護学 4 血液・造血器 医学書院 (5章)</p> <p>専門分野Ⅱ 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 (6章)</p>		
参考書			
評価方法	筆記試験 授業態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	周手術期看護	単位	1単位30時間
講師名	本瀬京子 鶴田京子 鈴木織枝	開講時期	後期
授業目標	1. 周手術期における看護職者の役割を理解する。 2. 対象特性に応じた周手術期(術前・術中・術後)の管理及び看護を理解する。 3. 領域別の特性を踏まえ周手術期における看護過程の展開ができる。 4. 周手術期対象の苦痛の緩和、効果的援助の方法、二次的合併症を防ぐ方法を身につける。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1～2	周手術期とは 手術を受ける対象の特徴	講義
	3～4	手術前の看護の特徴と理解	講義
	5～6	手術中の看護の特徴と理解	講義
	7～8	手術後の看護	講義
	9	技術演習 1) 除毛、臍処置、弾性ストッキング装着 2) 呼吸訓練 3) 術後ベッド作成 4) ドレーンの観察・管理 5) 術後離床	講義・演習
	10～13	看護過程演習 1) 成人：腹腔鏡下胃切除術、人工肛門増設術 2) 老年：人工骨頭置換術 3) 母性：帝王切開(新生児看護含む)	協同学習
14～15	看護過程発表	発表・協同学習	
授業形態	講義・演習・協同学習		
テキスト	臨床外科看護総論 医学書院 (6章、7章、8章、9章、12章)		
参考書			
評価方法	筆記試験 授業態度 演習態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野		対象学年	1年生
授業科目	老年看護学概論		単位 (時間)	1単位 30時間
講師名	本田智春 今福美紀		開講時期	後期
授業目標	<p>1, 加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化を理解できる。</p> <p>2, 老年看護に関する保健福祉医療制度に関する関係法規を理解できる。</p> <p>3, 地域包括ケアシステムを理解し、多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解できる。</p> <p>4, 高齢者の健康増進・介護予防について理解できる。</p> <p>5, 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化について理解できる。</p>			
授業内容	回数	内容	授業形態	
	1・2	<p>高齢者の理解</p> <p>高齢者とは、高齢者の特徴と理解</p> <p>高齢者にとっての健康、高齢者と QOL</p> <p>加齢に伴う変化</p>	講義	
	3・4	<p>高齢者疑似体験</p>	演習	
	5～7	<p>高齢者を取り巻く社会①</p> <p>高齢者の生活と家族、高齢者が生活する場</p> <p>高齢者を支える制度</p> <p>高齢者を支える社会資源</p>	講義	
	8～10	<p>地域包括ケアシステム</p> <p>地域包括ケア、在宅、介護保険施設</p> <p>地域密着型サービス、通所サービス</p>	講義	
	11～15	<p>高齢者のヘルスプロモーション・社会参加</p>	<p>個人学習</p> <p>グループワーク</p> <p>発表</p>	
授業形態	講義、演習、視聴覚教材、グループワーク			
テキスト	老年看護学①高齢者の健康と障害（メディカ出版）			
参考書				
評価方法	筆記試験（70点）、レポート（10点）、GW・発表内容（10点）、個人学習（10点）			
履修上の指導等	新聞やニュース等から最新情報を得ながら学習しましょう。			

科目分類	専門分野		対象学年	2年生
授業科目	老年看護学援助論		単位 (時間)	2単位 30時間
講師名	田淵美也子 今福美紀		開講時期	前期
授業目標	<p>1, 廃用症候群の要因と症状を知り、廃用症候群の予防方法が分かる。</p> <p>2, 褥瘡の発生要因と発生予防の方法を知り、褥瘡の治療とケアについて説明できる。</p> <p>3, 認知症の理解を深め、対象や家族を支援するための方法や支援体制を知ることができる。</p> <p>4, 高齢者を生活の様々な面から総合的にとらえ、高齢者の持っている力(強み)を生かしながら生活機能を整える方法を考える事ができる。</p>			
授業内容	回数	内容	授業形態	
	1	高齢者の廃用症候群の背景と特徴、廃用症候群予防のためのアセスメント・看護と評価	講義	
	2	【演習】褥瘡処置 褥瘡の発生機序、好発部位、危険因子、アセスメントと評価、治療と看護	演習	
	3	認知症の病態と要因、症状の理解とケア	講義	
	4	認知症の評価方法、予防と治療、コミュニケーション	講義	
	5	急性期医療における認知症高齢者へのアプローチ、非薬物療法	講義	
	6	認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム、人権と権利擁護、終末期ケア	講義	
	7	ICFモデルについて(生活機能の回復を促す支援を考える)	講義	
	8	【演習】事例提示	演習	
	9	【演習】ケアプラン作成	演習	
	10	【演習】ケアプラン作成	演習	
	11	【演習】ケアプラン作成	演習	
	12	【演習】ケアプラン作成	演習	
	13	【演習】ケアプラン作成	演習	
	14	【演習】給付管理表作成	演習	
15	【演習】サービス担当者会議	演習・視聴覚教材		
授業形態	講義、演習、視聴覚教材			
テキスト	老年看護学②高齢者看護の実践(メディカ出版)			
参考書				
評価方法	定期試験(50点)、ケアプラン演習(50点)			
履修上の指導等	新聞やニュースなどから最新情報を得ながら学習しましょう。			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	小児看護学概論	単位(時間)	1単位 30時間
講師名	岩永留美	開講時期	前期
授業目標	1. 小児看護の概念が理解できる。 2. 児の各発達段階の特徴と、小児及び家族への健康増進の看護が理解できる。 3. 小児を取り巻く社会が小児及び家族に及ぼす影響を理解できる。 4. 小児に関する法律がわかる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1・2	小児看護学概論 第1章 小児看護の特徴と理念 第2章 子どもの成長	講義
	3～6	第3章 新生児・乳児 第4章 幼児・学童 第5章 思春期・青年期の子ども	講義 グループワーク 発表
	7・8	第6章 家族の特徴とアセスメント	講義
	9・10	第7章 子どもと家族を取り巻く社会	講義
	11	小児臨床看護総論 第4章 子どものアセスメント	講義
	12	第5章 症状を示す子どもの看護	講義
	13・14	子どものアセスメント 症状を示す子どもの看護	グループワーク 発表
15	小児における在宅看護	講義	
授業形態	講義、グループワーク、発表		
テキスト	小児看護学概論（医学書院） ほか小児に関する書物		
参考書			
評価方法	定期試験 受講態度（グループワーク内容含む） 出席状況		
履修上の指導等	予習・復習をして臨むこと 子どもに関するニュースに関心をもち調べること		

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	小児看護学援助論 I	単位(時間)	1単位 30時間
講師名	船曳哲典	開講時期	前期
授業目標	1. 小児期に多い疾患および小児の疾患の特徴を理解する。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	染色体異常・体内環境より発症する先天異常	講義
	2	新生児期の疾患・異常	講義
	3	代謝性疾患	講義
	4	内分泌疾患	講義
	5	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患	講義
	6	感染症	講義
	7	呼吸器疾患	講義
	8	循環器疾患	講義
	9	消化器疾患	講義
	10	血液・造血器疾患	講義
	11	悪性新生物	講義
	12	腎・泌尿器および生殖器疾患	講義
	13	神経疾患	講義
	14	運動器疾患	講義
15	皮膚疾患、精神疾患	講義	
授業形態	講義		
テキスト	専門Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院		
参考書			
評価方法	筆記試験 聴講態度		
履修上の 指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	小児看護学援助論Ⅱ	単位(時間)	2単位 35時間
講師名	生田まちよ 今村真美	開講時期	前期～後期
授業目標	1. 病気や入院が小児及び家族に与える影響を理解する。 2. 様々な状況にある子どもと家族への看護を理解する。 3. 健康や障害の状態に応じた子どもおよび家族への看護がわかる。 4. 疾病の経過および治療・処置の看護を想起し、看護の実際が理解できる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	講義
	2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	講義
	3	子どもにおける疾病の経過と看護	講義
	4	検査・処置を受ける子どもの看護	講義
	5	障害のある子どもと家族の看護	講義
	6	隔離が必要な小児と家族の看護	講義
	7	救急処置が必要な小児と家族の看護 1) 事故・外傷 2) 誤嚥、熱傷、溺水 3) 心肺蘇生法	講義・演習
	8	子どもの虐待と看護	講義
	9	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護	講義
	10	新生児の看護	講義
	11	代謝性疾患と看護、内分泌疾患と看護	講義
	12	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護	講義
	13	感染症と看護、呼吸器疾患と看護	講義
	14	循環器疾患と看護	講義
	15	血液・造血器疾患と看護：血友病の小児	講義
	16	消化器疾患と看護	講義
	17	悪性新生物と看護：白血病の小児	講義
	18	神経疾患と看護	講義
授業形態	講義 演習		
テキスト	専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 小児看護実習ガイド 照林社		
参考書			
評価方法	定期試験 聴講態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	母性看護学概論	単位(時間)	1単位 15時間
講師名	中本洋子	開講時期	前期
授業目標	<p>1. 母性看護の基盤となる概念と、社会の動向を知り、性と生殖における看護師の役割が理解できる。</p> <p>2. 妊娠の生理と経過について理解できる。</p>		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	母性看護の基盤となる概念	講義
	2	対象を取り巻く社会の変遷、動向	講義
	3	ライフサイクルにおける形態・機能の変化	講義
	4	女性のライフサイクルと家族	講義
	5	母性の発達、成熟、継承	講義
	6	女性のライフサイクル各期における看護	講義
	7	リプロダクティブヘルスケア	講義
8	妊娠とは	講義	
授業形態	講義		
テキスト	専門Ⅱ 母性看護学概論 医学書院		
参考書			
評価方法	定期試験 聴講態度		
履修上の 指導等			

科目分類	専門分野		対象学年	2年生
授業科目	母性看護学援助論 I		単位(時間)	1単位 30時間
講師名	中本洋子 小浦和美		開講時期	前期～後期
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩の機序を理解することができる。 2. 胎児・新生児および産褥の生理について理解することができる。 3. 遺伝診断や不妊治療について学び、生殖をめぐる倫理について考えることができる。 4. 女性生殖器疾患の動向をふまえて、対象の持つ身体的および心理社会的特徴について理解できる。 5. 治療や処置を受ける患者の看護について理解できる。 			
授業内容	回数	内容	授業形態	
	1・2	子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって	講義	
	3・4	分娩のメカニズム 産褥の生理	講義	
	5・6	胎児・新生児の生理	講義	
	7・8	遺伝相談、不妊治療	講義	
	9・10	女性生殖器の看護を学ぶにあたって 患者の特徴と看護の役割	講義	
	11	疾患の経過と看護	講義	
	12	外来、病棟、診察介助における看護	講義	
	13	症状とその病態に対する看護	講義	
	14	臓器別疾患・機能別疾患患者の看護	講義	
	15	治療・処置を受ける患者の看護	講義	
授業形態	講義			
テキスト	専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院			
参考書				
評価方法	定期試験 聴講態度			
履修上の 指導等				

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	母性看護学援助論Ⅱ	単位(時間)	1単位 15時間
講師名	坂口優子	開講時期	後期
授業目標	妊娠、分娩、産褥に起こりやすい異常を理解することができる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1・2	妊娠の異常と看護 ハイリスク妊娠、 妊娠期の感染症 妊娠疾患、 多胎妊娠 妊娠持続期間の異常、 異所性妊娠	講義
	3～5	分娩の異常と看護 産道の異常、 娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害、 胎児の付属物の異常、 胎児機能不全 分娩時の損傷、分娩3期および分娩直後の異常 分娩時異常出血、 産科処置と産科手術	講義
	6～8	産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥期の発熱 産褥血栓症、精神障害	講義
授業形態	講義		
テキスト	専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院		
参考書			
評価方法	定期試験 聴講態度		
履修上の 指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	母性看護学援助論Ⅲ	単位(時間)	2単位 38時間
講師名	中本洋子 小浦和美	開講時期	後期
授業目標	<p>1. 分娩、産褥期における対象の特徴及び変化とその看護について理解できる。</p> <p>2. ウェルネス看護診断の考え方と、その看護展開方法の基礎を理解することができる。</p>		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1～4	妊娠期における看護 妊娠期の心理・社会的特性 妊婦と家族の看護	講義
	5～8	分娩期における看護 産婦の心理・社会的変化 産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護 分娩期の看護の実際	講義
	9～12	産褥期における看護 産褥経過、褥婦のアセスメント 褥婦と家族の看護、施設退院後の看護	講義
	13～16	新生児期における看護 新生児のアセスメント、新生児の看護	講義
	17～19	演習 1) 沐浴 2) 産褥体操	演習
授業形態	講義 演習		
テキスト	専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院		
参考書			
評価方法	定期試験 聴講態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	精神看護学概論	単位(時間)	2単位 30時間
講師名	富崎通恭	開講時期	前期
授業目標	1. 精神看護の目的、対象、役割・機能が理解できる。 2. 精神の健康の意義と精神の健康の保持増進について理解できる。 3. 危機状況とその対応がわかる。 4. 精神保健医療福祉の歴史と法制度を理解できる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1～3	精神障がいとは	講義
	4	「精神看護学」で学ぶこと	講義
	5・6	「精神(心)」のとらえ方	講義
	7・8	精神(心)の発達に関する主要な考え方	講義
	9	家族と精神(心)の健康	講義
	10・11	暮らしの場と精神(心)の健康	講義
	12・13	現代社会と精神(心)の健康	講義
	14・15	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿	講義
授業形態	講義、グループワーク		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院		
参考書	適宜、紹介します。		
評価方法	定期試験、レポートの提出、出席状況、授業態度などを考慮して評価します。 また、精神看護に関連するボランティアに参加し、レポート等で学びを提示した学生については、加点を行う。		
履修上の指導等	こころの健康はすべての人に大きく関わります。興味を持って主体的に学びましょう。		

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	精神看護学援助論 I	単位(時間)	1単位 30時間
講師名	藤本佳澄 酒井透 平原信雄 千葉孝也 富崎通恭	開講時期	前期
授業目標	1. 精神看護の目的、対象、役割・機能が理解できる。 2. 精神の健康の意義と精神の健康の保持増進について理解できる。 3. 危機状況とその対応がわかる。 4. 精神保健医療福祉の歴史と法制度を理解できる		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1~12	1. 主な精神症状 2. 主な検査 3. 主な精神疾患の特徴 4. 主な治療 5. 精神に障害をもつ人の理解	講義
	13	ケアの前提	講義
	14	ケアの原則、ケアの方法	講義
	15	関係のアセスメント プロセスレコード実技 患者－看護師関係について	演習
授業形態	講義、グループワーク、ロールプレイ		
テキスト	統看護学講座 専門 精神看護の基礎 精神看護学1 医学書院 系統看護学講座 専門 精神看護の展開 精神看護学2 医学書院		
参考書	その他適宜、紹介します。		
評価方法	提出物の内容、出席状況、授業態度などを考慮して評価します。		
履修上の指導等	3年生の実習で困らないように、しっかり学んでください。		

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	精神看護学援助論II	単位(時間)	1単位 20時間
講師名	浦中恵美子	開講時期	後期
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院や地域で生活している精神に障害をもつ人の看護がわかる。 2. 精神障害者の人権の尊重ができ、倫理について考えることができる。 3. 社会復帰・社会参加について知り、考えることができる。 4. 精神に障害をもつ人を支える家族のための看護を理解できる。 5. わが国の精神看護の発展について理解できる。 		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1・2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害をもつ人への看護援助の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護援助の基本構造 2) 精神障害をもつ人のセルフケアの援助 3) 患者による自己管理 	講義
	3・4	<ol style="list-style-type: none"> 2. 精神に障害をもつ人の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科病棟という治療環境と患者の生活 2) 精神に障害をもつ人への看護 3) 身体疾患を合併している患者への看護 	講義
	5・6	<ol style="list-style-type: none"> 3. 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域性新保険福祉と社会参加 2) 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際 3) 精神障害をもつ人を介護する家族への支援 	講義
	7・8	<ol style="list-style-type: none"> 4. わが国の精神看護の発展 <ol style="list-style-type: none"> 1) リエゾン精神看護 2) 司法精神医学と看護 3) 災害時の精神保健 	講義
	9・10	まとめ	講義
授業形態	講義		
テキスト	精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 メジカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社		
参考書			
評価方法	定期試験 聴講態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	臨床判断	単位	1単位 45時間
講師名	岡野美保	開講時期	前期
授業目標	1. 臨床判断の基礎知識について学ぶ 2. 対象の発達段階と健康問題を関連させて考えることができる 3. 主要疾患における看護の方法を理解できる 4. 既習の知識を統合し、対象の状態変化に気づくことができる 5. 状態に応じた看護実践を考えることができる		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	1. 臨床判断とは 2. 看護師における臨床判断プロセス 3. 対象の理解	講義
	2	対象の健康障害の把握と働きかけ	講義
	3	経過別看護（急性期・回復期）	講義
	4	経過別看護（慢性期）	講義
	5～6	主要症状における看護 1) 呼吸困難 2) 消化器症状（腹痛、吐血、下血） 3) 循環器症状（胸痛、浮腫） 4) 意識障害 5) せん妄 6) ショック	講義
	7～8	主要疾患における看護 1) 発熱・呼吸困難がある患者の看護（肺炎） ※事例発表・準備・演習	演習準備 事前学習テスト・演習・ 協同学習
	9～10	主要疾患における看護 2) 吐血・下血がある患者の看護（肝硬変） ※事例発表・準備・演習	演習準備 事前学習テスト・演習・ 協同学習
	11～12	主要疾患における看護 3) 意識障害がある患者の看護（脳梗塞） ※事例発表・準備・演習	演習準備 事前学習テスト・演習・ 協同学習
	13～14	主要疾患における看護 4) 胸痛のある患者の看護（心筋梗塞） ※事例発表・準備・演習	演習準備 事前学習テスト・演習・ 協同学習
	15～16	主要疾患における看護 5) 嘔吐・腹痛のある患者の看護（イレウス） ※事例発表・準備・演習	演習準備 事前学習テスト・演習・ 協同学習

	17～ 18	主要疾患における看護 6) 浮腫がある患者の看護（心不全） ※事例発表・準備・演習	演習準備 事前学習テスト・演習・ 協同学習
	19～ 20	主要症状における看護 7) ショック状態にある患者の看護（消化管出血） ※事例発表・準備・演習	演習準備 事前学習テスト・演習・ 協同学習
	21～ 22	主要症状における看護 8) せん妄のある患者の看護（術後） ※事例発表・準備・演習	演習準備 事前学習テスト・演習・ 協同学習
	23	テスト	
授業形態	講義 ・ 協同学習 ・ 演習		
テキスト	専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院		
参考書			
評価方法	筆記試験（50点）・ 事前学習テスト（30点） ・ 演習（20点）		
履修上の 指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	2年生
授業科目	専門職連携	単位	1単位30時間
講師名	山下利香 山下真奈美 内山節子 林亜星 川邊亮平 堀江 静	開講時期	後期
授業目標	1. 保健・医療・福祉チームの各職種の役割及び専門性を理解する。 2. 多職種協働の意義について理解する。 3. 各専門職の役割と連携・協働の実際を理解することができる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	多職種協働の意義と学習目的 看護職の専門性・役割	講義
	2	保健・医療・福祉チームの各職種の理解	GW
	3	管理栄養士の役割と連携・協働の実際	講義（管理栄養士）
	4	薬剤師の役割と連携・協働の実際	講義（薬剤師）
	5	理学療法士・作業療法士の役割と連携・協働の実際	講義（理学療法士）
	6	言語聴覚士の役割と連携・協働の実際	講義（言語聴覚士）
	7	社会福祉士の役割と連携・協働の実際	講義（社会福祉士）
	8	専門職連携の学習の事例（小児の事例）	講義・GW
	9	専門職連携の学習の事例（精神の事例）	講義・GW
	10	専門職連携学習の準備（ガイダンス）	講義・個人ワーク オンラインで他校の学生にも説明
	11	専門職連携 事例検討(脳梗塞の患者)入院初期の連携 (理学療法学生・作業療法学生・看護学生)	ディスカッション (他校の学生とリモート)
	12	事例検討の見直し（看護計画の見直し）	GW
	13	専門職連携 事例検討(脳梗塞の患者)退院前の連携 (理学療法学生・作業療法学生・看護学生)	ディスカッション (他校の学生とリモート)
	14	専門職連携のまとめ	GW
15	専門職連携のまとめ・発表	発表 レポート提出	
授業形態	講義・グループワーク・演習		
テキスト	実践 多職種連携教育 中外医学社 基礎看護学1 看護学概論 医学書院 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基礎 医学書院		
参考書	ナースのための退院支援 日本看護協会出版社 よくわかる退院支援 学研		
評価方法	筆記試験（50点）、課題・レポート（20点）、演習・態度（30点）		
履修上の指導等	九州中央リハビリテーション学院（理学療法科、作業療法科）の4年生とのディスカッション Teams or Zoom：時間を有効に活用し、積極的に参加すること。		

科目分類	専門分野	対象学年	2年生(46期生)
授業科目	終末期と看護	単位(時間)	1単位/30時間
講師名	早川 雪子、小崎 博和	開講時期	前期
授業目標	1、自己の死に対する考え方、受け止め方を見つめることにより、人にとっての生と死について考えることができる 2、死を迎える対象と家族のニーズを知り、終末期の看護師の役割を理解することができる 3、対象に応じた緩和ケア、死の受容および看取りの看護を理解することができる		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	1、終末期の看護・エンドオブライフケアの概念 1) 死とはなにか 2) 緩和ケアの歴史と発展 終末期看護・緩和ケア・エンドオブライフケア	グループワーク 「死生観」
	2	3) 日本の緩和ケアの現状と目標 療養の場の広がり と 支援する側のストレスマネジメント	
	3	2、倫理的課題と意思決定支援 1) 生命倫理 2) 臨床で直面する倫理的課題 インフォームドコンセント・事前指示書 延命処置・尊厳死と安楽死・鎮静など	グループワーク 「事前指示書」 ※終講時レポート (レポート点を終講テストに合算)
	4	3) 受容プロセスと意思決定支援 インフォームドコンセントにおける看護師の役割 アドバンスケアプランニング (ACP) コミュニケーションとグリーフケア	
	5	3、終末期にある対象の理解 1) ライフサイクルにおける広がり 小児・思春期・若年成人 (AYA 世代)・高齢者	
	6	2) 様々な疾患による広がり ① 悪性腫瘍 ②その他の疾患 ③老衰	
	7	4、症状のマネジメント 1) 全身的苦痛と包括的アセスメント 2) 身体的苦痛と看護 疼痛・倦怠感・食欲不振・悪心嘔吐・便秘・呼吸困難・浮腫	看護についてのDVD視聴 「終末期の苦痛と緩和ケア」
	8		
	9	3) 精神的苦痛と看護 精神症状・不安・抑うつ・不眠・せん妄	

		ロイ適応モデルの死の捉え方	
	10	6) 補完代替療法の実情 統合医療とは 補完代替療法の種類：アロマセラピーなど	
	11	4) 社会的苦痛と看護 家族ケア・地域連携・退院支援・グリーフケア・ ビリーブメントケア	
	12	5) 霊的苦痛と看護	
	13	5、臨死期の看護（実習室にてモデル人形を使った演習） 臨死期における症状の特徴とケア	モデル人形を使用し死後の処 置の演習
	14	死亡前後のケア	
	15	6、ケーススタディ「メヂカルフレンド社 終末期看護： エンドオブライフケア」より （テキストからケースを抜粋し、個人・グループで検 討する） 1) 病院から在宅へ移行する終末期がん患者の支援 2) 一般病棟における終末期慢性疾患患者への支援	
授業形態	講義・グループワーク・演習		
テキスト	医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア		
参考書	メヂカルフレンド社 経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア		
評価方法	受講態度、個人ワーク、グループワーク、筆記テスト		
履修上の 指導等			

科目分類	専門分野	対象学年	3年生
授業科目	看護管理	単位(時間)	1単位 15時間
講師名	山中小百合	開講時期	前期
授業目標	1. 看護マネジメントが理解できる。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1・2	看護とマネジメント	講義
	3・4	ケアのマネジメント	講義
	5・6	看護サービスのマネジメント	講義
	7	看護を取り巻く諸制度	講義
	8	マネジメントに必要な知識と技術	講義
授業形態	講義		
テキスト	別巻 看護管理 看護研究 看護制度 メジカルフレンド社		
参考書			
評価方法	定期試験 聴講態度		
履修上の指導等			

科目分類	専門分野		対象学年	2年生
授業科目	国際看護		単位(時間)	1単位 30時間
講師名	生田まちよ 楠本寛幸 日赤		開講時期	後期
授業目標	1. 国際看護の必要性が分かる。 2. 国内外において看護ニーズをもつ様々な文化背景の人々への理解を深めることができる。 3. 国際看護の現状と活動について理解できる。 4. 災害看護の基礎的知識を理解し看護の役割を学ぶ。			
授業内容	回数	内容	授業形態	
	1	国際看護の概念 グローバルヘルス	講義	
	2	国際協力のしくみ 開発協力と看護	講義	
	3	異文化理解と国際看護活動	講義	
	4	国際看護活動の展開過程	講義	
	5	国際看護活動の実際	講義	
	6～8	災害看護 1) 災害看護の概念 2) 災害看護活動 3) 災害への対応 4) 亜急性期以降の支援	講義	
	9	トリアージ	演習	
	10～15	災害サイクルに応じた活動 急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期	講義・演習	
授業形態	講義			
テキスト	統合 災害看護学・国際看護学 医学書院			
参考書				
評価方法	レポート 定期試験 聴講態度			
履修上の指導等				

科目分類	専門分野		対象学年	1年生
授業科目	医療安全（感染防止・事故防止含む）		単位	1単位 34時間
講師名	尾崎かおり 鈴木織枝		開講時期	前期～後期
授業目標	1. 感染の基礎知識及び感染防止対策についての基本的な考え方が理解できる。 2. 看護における事故及び事故防止の概要がわかる。 3. 事故を事前に予防する方法を知ることができる。 4. 医療システムの中の危険因子を知り事故防止のための基礎的知識、技術を習得する。			
授業内容	回数	内容	授業形態	
	1	【感染防止】感染防止の基礎知識	講義	
	2	感染経路別予防策 標準予防策（スタンダードプリコーション）	講義・演習	
	3	対策の実際	演習	
	4	洗浄・消毒・滅菌	講義・演習	
	5	無菌操作	講義・演習	
	6～7	無菌操作の実際	演習	
	8	感染性廃棄物の取り扱い	講義・演習	
	9	カテーテル関連血流感染対策	講義	
	10	【事故防止】医療における看護師の役割	講義	
	11～12	病院で起こりやすい事故	講義・演習	
	13	KYT（危険予知トレーニング）	演習	
	14	病院における事故と対策 ・転倒・転落防止、患者誤認防止、誤薬防止	講義・演習	
	15	医療安全の基本的な考え方 国・組織としての医療安全対策	講義	
	16	医療事故に伴う看護職の法的責任と看護職賠償責任保険制度	講義	
	17	危険の種類による医療安全対策	講義・演習	
	授業形態	講義・演習・グループワーク		
テキスト	基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護実践マネジメント 医療安全 メヂカルフレンド社 医療安全ワークブック 医学書院			
参考書	医療安全に活かす KYT メヂカルフレンド社			
評価方法	筆記試験 授業態度 演習態度			
履修上の指導等	予習・復習をして臨むこと			

科目分類	専門分野	対象学年	3年生
授業科目	統合看護	単位(時間)	1単位 30時間
講師名	山下利香 他教員	開講時期	前期～後期
授業目標	1. これまでに学んだ知識、技術を統合させ臨床実践できる主体的な判断力と行動計画を立てる能力を養う。 2. 計画、実施した内容を評価し次の看護に生かせる能力を養う。 3. 臨床に近い状況下で複数の患者への看護を通して総合的な評価や対応をする力を養う。		
授業内容	回数	内容	授業形態
	1	1日の業務の組み立て ・複数患者を受け持つための情報収集・管理	講義
	2	1日のタイムスケジュールの立て方と業務時間の管理	講義
	3	タイムスケジュール作成の実際	演習（個人ワーク）
	4	多重課題への対処	講義
	5～11	2事例の行動計画立案 計画に沿って援助の演習	演習 個人ワーク・グループワーク
	12～15	援助の実際発表（割り込み状況への対処） 考察	発表 グループワーク
授業形態	①講義， 8時間 ②演習（グループワーク）発表 22時間		
テキスト	新体系 看護学全書 37 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 メジカルフレンド社 p87～117（資料）		
参考書	基礎看護技術 他		
評価方法	筆記試験（30点） 演習の評価（70点） 聴講・グループワーク・演習発表態度 グループワーク参加：グループワークの記録を提出。		
履修上の指導等	必ず自己学習をしてからグループワークに臨む。 グループメンバーとして積極的に参加する。		